

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 31人 |
| ② 算数 | 31人 |
| ③ 理科 | 31人 |

5 留意事項

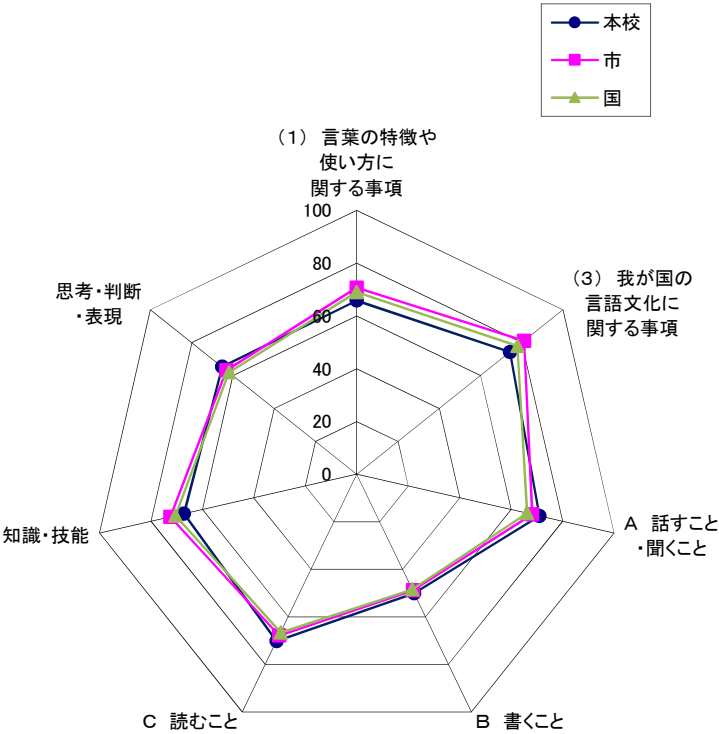
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.0	68.2	66.2
	B 書くこと	50.0	48.9	48.5
	C 読むこと	70.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	67.2	72.5	70.5
	思考・判断・表現	65.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

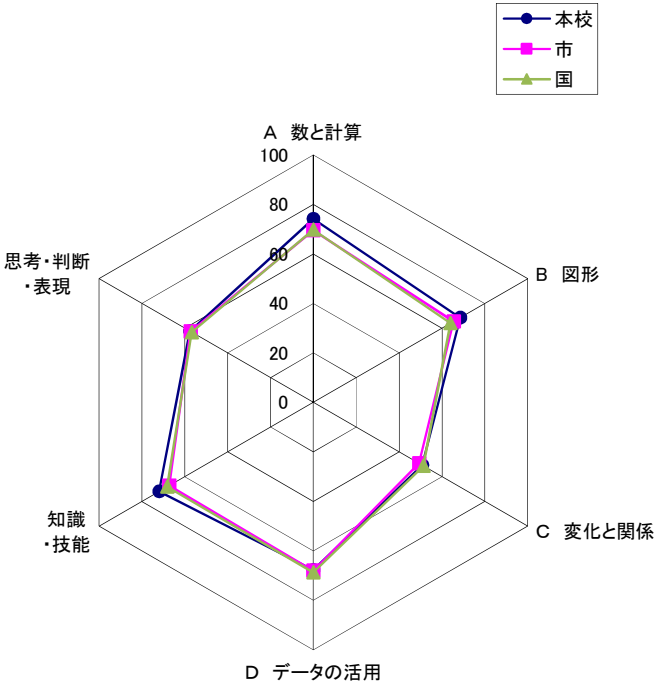
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	平均正答率は、全国平均よりもやや低い。 ●ひらがなを漢字に書き直す設問では、熟語・送り仮名を含む漢字のいずれも、38.7%の児童が不正解となっている。また、10%近くの児童が音から同音異義語を想像することができておらず、意味と結びつけて考えられていないことが分かる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習では、身近に漢字辞典を置いて調べたり、1人1台端末を活用したりして進めていく。多様な使い方や、意味と結び付けて捉えることの大切さに触れる機会を増やし、言葉の使い方を身に着けられるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に に関する事項	平均正答率は、全国平均よりもやや低い。 ●読みやすい文や文章を書くためには、選択肢にある「行の中心に文字の中心をそろえる」「とめはねの書き方」「文字の大きさ」「文字と文字との間」の全てが大切である。誤解答の児童が25.8%おり、重要事項が表すことを正しく認識できていないことが伺える。	・作文等の清書の際には、重要事項を意識的に指導に取り入れていく。また、書写の時間には、本時の学習と重要事項を板書等に残し、児童が意識したり確認したりしながら取り組むことができるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均よりも4.8ポイント高くなっている。 ○複数の条件をもらわず確認できている児童が多い。また無回答の児童がおらず、自分の意見をまとめることに前向きに取り組むことができていると言える。	・相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を注意深く聞き取れることを国語だけでなく他教科の学習においても指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりもやや高い。 ○複数の条件を取り入れたり、文章全体の構成や書き表し方に着目したりして書くことの大切さを理解し、考えたり表現したりしている。 ●全国平均よりも正答率は高くなっているが、正答率自体は高くない。	・意図的に条件を付けて書く機会を増やし、その目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことを継続して行っていく。 ・様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、自分や友達の文章のよいところを見つけ、推敲できるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりも3.6ポイント高い。 ○登場人物の気持ちを表現した複数の叙述を基に考える設問に83.9%の児童が正答できており、全国平均よりも15.5ポイント高い。非常によくできていると言える。 ○物語の全体像を具体的に想像し、まとめる設問においても、全国平均よりも5.9ポイント高い正答率となっている。	・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理していくことができるよう、キーワードに印をつけるなどの指導を行い、更なる読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.2	69.5	69.8
	B 図形	68.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	50.8	49.3	51.3
	D データの活用	67.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	57.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

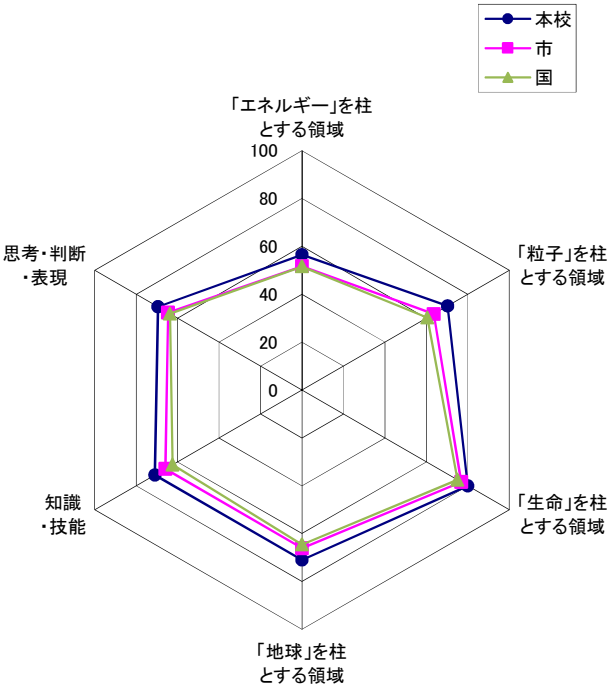
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均よりも4ポイント以上高かった。 ○場面を解釈し、なぜ除法で求められるのか理由を記述することは、よくできていた。学習課題においてなぜその式になったかを説明する機会を設定した成果であると考えられる。 ●概数の表し方は、必ず四捨五入をするのではなく、目的に合わせて、切り捨てたり、切り上げたりなど概数の表し方を工夫することの理解に課題が見られる。	・今後も継続して、式の表す意味について考えたり、話し合ったりする機会を設け、場面を理解し、問題解決できるように指導する。 ・概数の表し方は、四捨五入の方法のみではなく、場合によっては切り捨てて計算することや、切り上げて計算することが必要であることを指導していく。また、どのようなときに切り捨てた方がよいのか、または切り上げた方がよいのか等を確認しながら、概数で表すことができるように指導していきたい。
B 図形	平均正答率は、全国平均よりも4ポイント以上高かった。 ○長方形の作図において、プログラミングの手順に従って向かい合う辺の長さを答えることはよくできていた。長方形の性質について復習を重ねて定着を図ってきた成果であると考えられる。 ●作図のプログラムをもとに、正三角形を正しくかくように手順を修正することはあまりできていなかった。回答の内容から、三角形の性質について概ね理解している様子は伺えるが、プログラミングによる作図のイメージができていなかったと考えられる。	・図形の性質の理解は、作図や、線の長さ、角の大きさなどの計算にも関わるため、今後もより定着できるよう繰り返し指導をしていきたい。 ・大きな課題は、プログラミングによる作図の考え方が、十分に身に付いていないことであった。今後は、端末等を利用して、プログラミング的思考を用いて作図の手順を身に付けること、また実際に作図することができるように指導をしていきたい。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均よりもやや低かった。 ○百分率で表された割合を分数で表すことは、おおむねできていた。割合の表し方を、分数や百分率に変換して答えられるように習熟する機会を設定したことの結果であると考えられる。 ●数量が変わっても、割合は変わらないことの理解は不十分であった。数量が変わっても、割合は変わらない場合があることを理解できるように学習を進めていく必要がある。	・割合について、分数や小数、歩合などで変換し、計算できるように今後も継続して繰り返し学習に取り組ませたい。 ・また、水溶液や飲み物などを例にとり、全体に均等になって散らばりのある集合では、数量が変わっても割合が変わらないことを理解できるように指導していきたい。
D データの活用	平均正答率は、全国平均よりもやや低かった。 ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることの正答率は、全国平均よりもやや高かった。円グラフなどを作図する活動を取り入れたことが、正答率に影響したと考えられる。 ●分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察することに課題が見られる。	・今後も円グラフなど割合を見とることができるグラフを作図したり、グラフから数量・割合としてわかることを説明したりする学習を通して、データ処理能力が身に付くように指導していきたい。 ・また、表の読み取りでは、数量や割合などの定量的なデータだけではなく、数値で表されない定性的なデータを見ながらどのようなことが分かるかなどを捉えさせることも指導していきたい。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.5	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	70.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.0	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	71.0	66.1	64.6
観点	知識・技能	71.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	69.5	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より高い。 ○鏡ではね返した日光を当てる実験で、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題の平均正答率は77.4%で、全国平均68.9%より8.5ポイント高い。鏡を使った実験や体験を十分に行ってきた成果が出ているものと思われる。 ●鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題の平均正答率は、29.0%で、全国平均の27.8%より1.2ポイント高いものの、3割に満たない。複数の条件を問題文や図から読み取り、既習の学習内容を活用しながら解答することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・単元の導入で感じた疑問を追究するため、実験方法を考え、その妥当性をクラスで吟味する。そして、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想することができるようにする。また、結果を予想し、実際に得られた結果と比較して考察するなどの活動を継続的にを行い、実験や観察で得られた結果を、問題の視点から分析して解釈し、自分の考えをもつことができるようにする。 ・繰り返し学習内容の復習を行い、確実な定着を図るとともに、問題文の読解の仕方、解答の仕方についても丁寧に指導し、既習の学習内容を活用し、多様な条件で鏡を効果的に操作できる力を身に付けることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より高い。 ○実験器具の名前を書く問題の平均正答率は96.8%とよくできている。また、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらに加える水の量を選ぶ問題も平均正答率87.1%と全国平均を17.1%上回っており、器具の使い方を丁寧に指導しながら、実験を行った成果であると考えられる。 ●水溶液の凍り方について、問題に対するまとめを選ぶ問題の平均正答率は61.3%で、全国平均の62.8%に比べて1.5ポイント低い。水溶液が凍った温度について明確に説明していない間違った選択肢を選んだ児童が多かったことから、問題で問われていることを実験結果の表を基に読み取ることに課題があると考えられる。	・条件に合わせ、複数の視点から資料を読み取ることに課題が見られるので、算数や社会の時間と相互に関係づけを行い、資料を正確に読み取る力の定着を図りたい。 ・記述を求める問題に、条件を満たした解答を書くことに課題が見られるので、学習問題や考察を言葉で表現したり、友達と言葉の吟味をし合ったりする活動を増やし、視点をしっかり押さえた解答が書けるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、どの問題においても全国平均より高い。 ○カブトムシの育ち方と主な食べ物の特徴から表のどこに当てはまるのかを選ぶ問題では、平均正答率90.3%と、全国平均76.1%よりも14.2ポイント高くよくできていた。これは、視点を意識させて、観察などを行ってきた成果であると考えられる。	・問題文の一部の言葉だけに反応し、直感的に答えてしまう傾向が見られるので、類似問題に学級全体で取り組むなどして、問題文のどこに着目するのかを意見を出し合って考えさせたり、既習の学習内容の活用の仕方を練習させたりしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より高い。 ○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題の平均正答率は、80.6%で、全国平均64.5%より16.1ポイント高い。 ●結果から言えることは、提示された結果のどこを分析した物なのかを選ぶ問題の平均正答率は45.2%と5割に満たない。資料から必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけて、結論を導き出すことに課題が見られる。	

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己有用感に関するものとして、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答は100%で、全国平均より12.9ポイント高い。また、「自分にはよいところがあると思いますか」、「将来の夢を持っていますか」に対する肯定的回答はどちらも88.2%で、全国平均より8ポイント以上高い。今後も学級活動や児童会活動などの特別活動を中心とした、自治的な集団活動を通して自己有用感の涵養に努める。

○規範意識に関するものとして、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対する肯定的回答は100%で、全国平均よりそれぞれ3.2ポイント、4.9ポイント高い。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対する肯定的回答は94.1%で、全国平均より5.2ポイント高い。今後も、道徳科の授業を中心に、全教育活動を通して規範意識を高めていく。

○学習習慣に関するものとして、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問事項に対して、1時間以上と回答した割合は85.2%で、全国平均よりも25.8ポイント高い。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問事項に対して、1時間以上と回答した割合は88.3%で、全国平均よりも31.2ポイント高い。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」に対する肯定的回答は88.2%で、全国平均よりも17.1ポイント高い。今後もAIDリルや「自主学習のヒント集」を活用して、主体的に家庭学習に取り組む児童の育成に努める。

●読書に関するものとして、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問事項に対して、10分よりも少ないと回答した割合は52.9%で、全国平均よりも12.5ポイント高い。また、「読書は好きですか」に対する肯定的回答は52.9%で、全国平均よりも20.2ポイント低い。コロナの影響によりここ数年、読書週間などの本に親しむための取組が行えなかった影響が出ていることが考えられる。一方で学習意欲の高い児童が多いことが質問紙の結果から分かっている。今後は学習内容を深めたり広げたりする本を紹介したり、読書週間などを通して読書に親しむ時間を増やしたりすることで、読書への興味・関心を広げ、読書時間の増加につなげていく。

●情報機器に関するものとして、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答は64.7%で、全国平均よりも6.8ポイント低い。また「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問事項に対して、1時間より少ないと回答した割合は41.2%で、3時間以上と回答した割合は32.3%で、使用時間について二極化していることが明らかになった。学級活動等を通して、テレビゲーム等の依存性について啓発するとともに、家庭でのルール作成とその徹底について、家庭へ啓発していく。

宇都宮市立岡本小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自分の学びに気づき、主体的に課題解決に向かう工夫	児童の興味関心を高める導入を工夫し、課題解決の見通しを持って学習に取り組むことができる工夫をする。 各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかに気付けるようにする。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は82.4%で、全国平均よりも5.1ポイント高い。 「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、新しいものを創り出す活動を行っていましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は、85.3%で、全国平均より、11.8ポイント高い。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して交流することができるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりする。 また、授業の最後に、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行う。 各教科における重要語句を習得させるよう工夫する。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は、88.2%で全国平均より8.1ポイント高い。 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は、82.3%で、全国平均より、10.1ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、「文章の内容を適切に捉える」「必要な情報を選び活用する」「学習内容を日常の具体的な場面に対応させる」等の問題の正答率が全国平均より低い傾向があり、各教科に関する共通する課題である。	各学年で、文章や資料を読む力を育てることに重点を置いた指導を行うと同時に、既習の語句を繰り返し取り上げ、自分の考えを書いたり、説明したりするなどの言語活動を、教科横断的に取り入れる。	どの教科においても、言葉を意識したやり取りを積極的に取り入れて語彙を増やすとともに、複数の資料から必要な情報を読み取ったり、文章の意図するところを学級全体で話し合ったりする活動を積極的に取り入れ、読解力の伸長を図る。また、学習を通して分かったことを言葉として表現する機会を意図的に増やす。 また、授業内容に関連する「復習教材」や「過去問題」等を適宜取り入れ、既習事項を活用して様々な問題に取り組む機会を意識して設ける。